

第28回日本骨粗鬆症学会 新潟

SYMPOSIUM 36 / 2026年9月13日(日) / 10:30~12:00

シンポジウム36 「PTからの提言：脆弱性骨折リハビリの最適化」

「機能を取り戻す」から、
「人生を取り戻す」へ。

—— PTが描く、脆弱性骨折後ケアの新しい未来。From Fracture to Life.

日時	会場	座長
2026年9月13日（日） 10:30～12:00	第5会場（3F 中会議室301） 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター	田中 暢一（ベルランド総合病院） 吉井 智晴（東京医療学院大学）

問いかけ

あなたの施設では、どうしていますか？

- ① 術後48時間以内の早期離床は、本当に標準化されていますか？
- ② リハ室で「できるADL」は、自宅で「しているADL」になっていますか？
- ③ 退院した患者さんが、1年後も歩けているか、再骨折していないか、追えていますか？

この3つの問いに、PTだけでは答えられない。だからこそ、多職種で考える。

プログラム / PROGRAM

5人のPTが、5つの視点から提言。

骨折後の「点」を、人生という「線」へ。Acute → Recovery → Community → Life

WORLD	[3-SY36-1]	田中 暢一（ベルランド総合病院） — 国際枠組みから「あるべき姿」を。 FFNの国際的枠組みに基づく脆弱性骨折後ケアの最適化—— リハビリテーションと二次性骨折予防の統合
DATA	[3-SY36-2]	渡邊 啓太（呉共済病院） ほか — 急性期リハ実態調査から見えた課題。 急性期におけるリハビリテーション体制および評価・連携に関する調査からの課題
FOLLOW-UP	[3-SY36-3]	風穴 愛貴（十和田市立中央病院） ほか — 1年間の追跡で見えた成果と課題。 大腿骨近位部骨折が身体機能に及ぼす影響—— 1年間のフォローアップでみえた成果と課題
LIFE	[3-SY36-4]	丸 貴仁（所沢白翔会病院） — 機能から生活への「変換」。 地域へのリハビリテーション移行の鍵—— 理学療法士の立場から、機能から生活への「変換」
TEAM	[3-SY36-5]	高野 義隆（新潟リハ病院） — 多職種協働で最適化する。 理学療法士が考える多職種協働—— 脆弱性骨折患者のリハビリテーション最適化に向けて

参加へのお誘い

PT・OTへ— これからのリハを考える90分。リハの役割を「機能回復」から「二次性骨折予防」へ広げる。
医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・MSWへ— 「リハビリテーション」をチーム医療の視点から、一緒に。
—— 機能から生活へ。治療から予防へ。病院から地域へ。—— 脆弱性骨折ケアの次のステージを、ここから。